

チョコ、かんちがいしないでね



浜野えつひろ

森シホカ・絵

六年間の小学校生活が、もうすぐ終わりになる二月のことなのです。

最後の素敵な思い出づくり、それが、その日かもしれない。ハートが、きゅんとして、きゃっ、だったら、もう最高！

夜明けから、ちらちらとふりはじめていた粉雪は、今、教室の窓の外を、白い世界へ変えていた。

寒い日だった。

でも、わたしの胸の内は、ちょっと熱い。

そして、そわそわしていた。

だって、今日は、女の子には、とても大切な日。教室の女子は、全員、意識していたし、やっぱりわたしも……。

松野弘恵、がんばれ！

なんて、心の中で自分に声援を送る。

そう、今日は、バレンタインデー。

女の子がチョコを贈る日。

朝、担任の男の先生は、おどけた感じで、いった。

「えー、おっほん。わかっていると思うが、学校にお菓子を持ってきてはいけないぞ。ましてや、チョコなんぞはな！」

冗談でいったつもりかもしれないけど、女子も男子も笑わなかった。

今日、わざわざ、そんなこといわなくてもいいのに。冗談きつすぎるよ。